

展示場再整備に伴うオオカンガルーの園内移動の実施について

○佐藤澄音 和田優子
横浜市立金沢動物園

平成 27 年度のオオカンガルー展示場（以下本獣舎）再整備工事に伴い、飼育個体を園内の別の獣舎（以下仮獣舎）に移動した。この時の反省を踏まえて移動方法等に改善を行い、整備完了と同時に本獣舎へ再移動した。

オオカンガルーは、2 つの群れに分けて飼育を行っていた。移動時（平成 27 年 3 月）は 58 頭、再移動時（平成 28 年 3 月）は 61 頭を飼育していた。移動に使用する移動箱は、個体の体重や体長に応じたものを 4 種類（輸送箱、バリケン、ペットケージ、麻袋）用意した。内部は、輸送時の衝撃を最小限とするよう工夫を施した。

仮獣舎への移動は、非展示期間を最小限に留めること等に考慮して、平成 27 年 3 月から 6 月の間にかけて 4 回に分けて実施した。箱取りを実施する際に、個体を落ち着いて誘導できるか等の課題もあったが、普段の個体管理（体重測定・性格や体格の把握等）が確立できていたことにより、個体がパニックを起こさずスムーズに実施できた。しかし、担当者以外のみで箱取りを行う場面もあり、個体識別に時間を要し他の作業者の待機時間が発生した。また、同じ群れに属する個体同士で移動日が異なることで、再度同居した際に、雄による雌への追尾行動が目立つなどの部分もあった。

整備完了に伴う本獣舎への移動は、平成 28 年 3 月に 1 回で全頭を移動した。仮獣舎への移動時の反省を踏まえ、作業人員の増加・職員配置の見直し・移動箱の選び直し等の改善を行った結果、群れ内での衝突や追尾は見られず、全体の作業時間も削減することができた。

今回の事例から、群れ内での衝突やパニックを避けるためには、移動は群れを分離せずに行うこと、普段の個体管理で人が直接関わる機会を多く作ることで動物が落ち着き、誘導作業等を円滑に行える可能性が高くなること等が考えられた。